

# ふるさと奥尻通信

平成27年12月31日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

酒を良く飲む人や強い人を「ジョウゴ(上戸)」といい、いくら飲んでも倒れないひとを「ザル(筧)」という。顔色一つ変わらずに飲ませがいのない人を「オケ(桶)」という。らしい。

## 特集 奥尻飲み屋通り寸考

かつて奥尻島は、人口の割に飲食店が多く、特にスナック、バーなどのいわゆる“飲み屋”が多かったとされています。昭和46年の調査では役場やフェリー港がある奥尻地区において、喫茶・食堂が10軒、バー・遊技場が10軒の計20軒あり、この数値は全国的にみて“異常”であるとされました(1975藤岡謙二郎・浮田典良共編『離島診断』地人書房)。この飲食店の急激な増加は、統計上は昭和39年から同41年に起こったことのように、時期的には町制施行となる前後になります。

この奥尻地区の飲食店街は、塩釜川沿いの通称「親不孝通り」と一本北隣の「花街通り」にかたまっています。平成27年11月末現在、同地区(港湾を除く)の飲食店は、軽食喫茶1、食堂1、焼き肉屋2、居酒屋3、寿司屋3、スナック3、バー1の全14軒です。

「親不孝通り」とは全国各地の飲み屋街で見かけるような気がしますが、よくぞ名付けたなと思います。身を持ち崩すような飲み方、遊び方をしては、本当に親不孝となってしまいますので、やめましょう。



親不孝通り 平成25年頃 右手が塩釜川



奥尻地区中心部空撮 平成13年頃



利用者の一人でもある学芸員の酔っぱらった目から“冷静”に一般利用者の動向を分析すると、一週間のうち、金～月が利用客が多く、火～木は比較的空いているように見えます。季節的に見ると、1月～3月はイカ漁や他の漁がなく、他の時期に比べて、漁師さんたちが頻りに飲み歩いています。4月以降はホッケ漁、6月からはイカ漁再開、7、8月はウニ漁、アワビ漁となり、忙しさの最盛期ですので、公務員や会社員が利用者の中心となっているように見えます。夏場は、帰省客や観光客が多いので、昼間の営業をする寿司屋さんなども出てきます。また、自衛隊員は交代勤務なので、平日でも街に出ることができますので、結果的に人の出に偏りがでないようになっています。人の流れとしては、18:00頃から居酒屋か寿司屋、21:00頃からスナック、23:00頃からバーに流れますので、その時間帯が一番混み合っています。これは都市の歓楽街と比較しても大差ないと思います。

ところで、昭和38年の水害前には、この塩釜川を挟んだ対岸にも喫茶「不二」があり、にぎわったそうです。元々は昭和27年に米軍基地ができてから、米兵が出入りするスタンドで、自衛隊に引き継がれた後は、この橋の上で地元の若者と自衛隊の若者がケンカをし、負けたどちらかが落ちる、という逸話が残っています。

昭和38年には水害の他にも大火があり、奥尻地区の飲食店ふくめほぼ全ての商店が焼失してしまいました。その後は区画整理を行い、かつて海岸通りに並んでいた飲食店が移転し、現在につながる飲み屋街が形成されたものと思われます。そのため、現在地での営業はさかのぼっても昭和38年以降でしょう。



米軍が出入りした「不二」と塩釜川に架かる橋



大火前の配置図 中央左端が「不二」昭和30年代





昭和初期～10年代頃の奥津神社例大祭にて運行された「蛭須山」の山車です。現在、「えびす山」と言えば、青苗地区の山車ですが、このころは奥尻地区でも出されていたことが判明しました。手前に料理屋の芸者衆が三味線を構え、周りには「釣懸共済会」、「國枝回漕店」、「山下興行(?)」、「北海タイムス」、「函館新聞」と染め抜いた半纏を着た大人たちと大勢の子供たちが写っています。山車人形の横には「大友」、「マルカ(加賀屋商店)」、「カネニシ」、「カネジウ」と染めた提灯が見えます。この当時奥尻地区にあった商店でしょう。麻生直子氏提供。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

公開! 達人釣りの仕掛け  
山谷 正 北海道新聞社

釣りには仕掛けが重要ですので、みなさん独自の工夫をしています。例えばカレイ釣りとソイ釣りでは、そもそも針の種類が違うし、エサまで違ってきます。また、釣り場でも砂場、岩場、港内用にしかけやオモリを使い分けることが必要になってきます。釣り名人たちのしかけ作りを参考に、あなたもビックフィッシュに挑みましょう!(ほどほどにね)

月刊 奥尻のつり 12月号

この12月は比較的波が穏やかで、プラス気温が続いたこともあり、中旬以降も磯釣りが出来るという幸運に恵まれました。例年ならば雪が降ってしまい、岩場へは渡れないので港内でカレイやカジカをねらうしかないので、岩場のソイやハチガラ、たまに回遊してくるホッケを釣ることが出来たのです。今年はソイの当たり年なので、40cm級はざらで、宮津弁天奥の岩場でも50cm級が上がるなどしていました。また、弁天下ではヤリイカ釣りが盛んで、毎日のように10名ほどのアングラが竿を振っていました。多い人で20パイ以上釣ったひともあったそうです。イカは回遊するのに合わせて短時間で釣り上げるので、日によって釣果に差があります。ヤリイカは、スルメに使うマイカと違って、柔らかくて甘みのあるのが特徴で、好みが分かります。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第4回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「島の子」第八号より  
にたに引思た明く尾一た飛 も起しだた寝い隣  
し。行っ。るっづ人。ん朝七つきゃつらてたの十二  
た明こっ張てへくた、のしで起月か二くた朝しがお十二  
。日れてるトよなが釣中や行き二な人っのだま、父時に  
かで測にンうっ釣け七くかた十い起てでっつ一人目  
ら深っかボしてかた人っざら日。きいたたか人起を  
次澤さた、を今来ながだたま。したン。なな起を  
回山のらっ上日たい、けがだまへ たらボそ次いきさ  
へ持方ハたげこ仕。俺のつウだ月 釣、をれにのてまし  
つつも十。たそ方もい大か口昨曜 っ大下で目かしした  
づて安一俺。はなうく人な、日日 た人るもを、やたら  
く来心尋一 錨しく辺らはいしの〜 がもし時さこくら  
るしあ番をとやりし皆。て霧 がもし時さこくら  
事 っ先 めはヤ一十いが 尾人 頃しもての

るうもをでえ理ルま用での  
だ。容置小るしがしのすオだ  
け後易く中よて使たすがしだ  
ではにこ学う内用。キ、プ今  
すゲなと校に部しか。先ン、  
。レつが四しをてつ置だに桜  
ンたで校ま改いてきつ向ケ  
デこき分し造た陶場てけ丘  
にと、のた、小芸を小てス  
雪で片ス。広屋サ整中準キ  
がし付キこくを。備学備  
降よけしれ使整クし生中場



海岸まで降りてきたアカネズミ

話とたズ同たま尻予はこ年らが  
ははとミじそで地想そとはい大昨年  
別の?くうに区されがネで豊は  
でえこもらで約のれな知ズし作は栗  
す、といいす三とてりらミたで栗  
ねネ。ての。〇あいこれが。食や  
。ズ自家大中匹るま出て大豊ベ  
ミ然内きにが家しるお量作き  
ととをなは捕でただり発のれグ  
な騒ドネ獲はがろ、生年なり  
る共がブコさ晩、う今すのいな  
と生せネとれ秋奥な年る翌くど

ネズミさん出てきたよ

いれの十送庫はへ物釣積冬  
気た煮二つが奥送のりもは気  
持の付才てな尻つほばら暖が  
ちでけにもいとてとかなかつ  
で、をな困の違いにりいくけ  
す。孫食べるで、つまどのも、ば  
とべ祖だど大が、田日でか走  
てせにとしき、舎ですなす。  
うてカかんと冷こ両。ら、雪  
れあレ。と凍う親獲、も今

視しの部人イた大し各渡慈手  
察た意隊たド被震ま市 県十二  
団。見とちや災災し町岩田沿二  
で久交交で地地でた。村泉野岸月  
し々換流す域で大。か、畑地十日  
た。のをし。活、きいら陸前宮域  
被活、奥動現なづ視前宮域  
災発被尻で地被れ察高古、あり  
地に災津活で害も団田、る、  
か行地波躍震を東がな大、日  
らい同話す災出日来ど船久、  
のま士りるガし本島の 岩

岩手県より視察団来る

今月の奥尻のお宝

賽の河原公園竣工記念  
'97.6.22

奥尻町

賽の河原公園竣工記念テレカ 平成9年